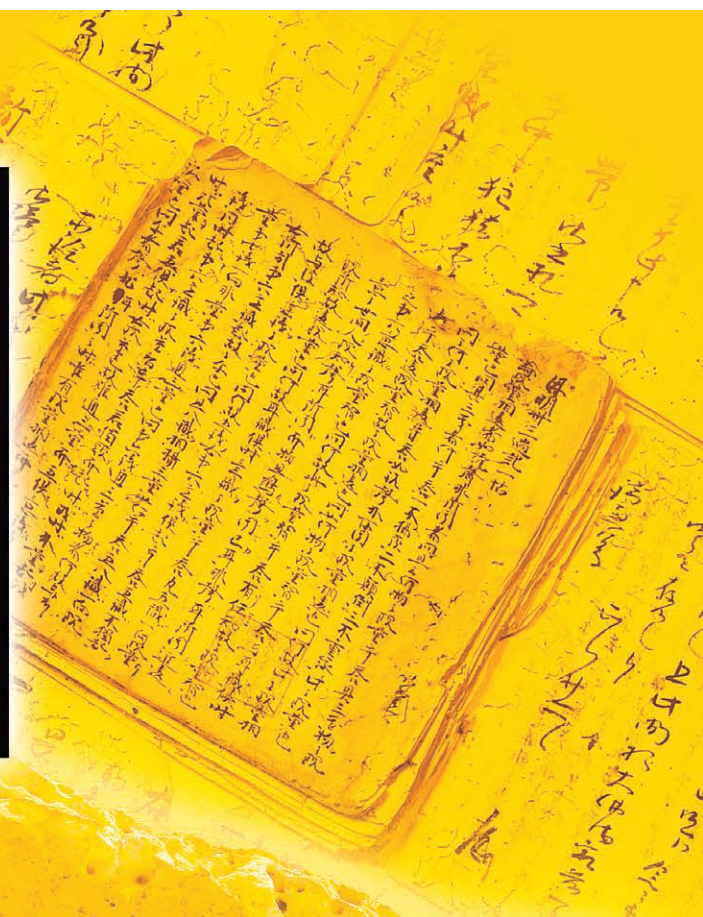


# CHT Newsletter

Research Center for Cultural Heritage and Texts

2015  
No. 1  
August

名古屋大学文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター



## Contents

- センター長挨拶 …… 2
- センター構成図 …… 3
- センター開設記念研究集会 前近代社会における知の伝達方法 …… 4
- 国際研究集会 東アジアの宗教儀礼 …… 5
- 調査報告 聖徳太子二歳像胎内納入宗教テキスト調査速報 …… 6
- 海外出張報告 『ちごいまの世界』活動報告 …… 7
- 2014年度活動報告 …… 8
- 2015年度の研究活動 …… 10



## 人文学の未来へ ——テキスト学による人文遺産創成

阿部 泰郎

名古屋大学文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター長・教授

人類文化遺産テキスト学研究センター（略称 CHT）は、2014年4月、名古屋大学文学研究科附属の研究機関として設立されました。その任務は、人類にとってかけがえのない文化の遺産すべてをテキストとしてとらえ、その創造や意義をテキストとして読み解くことです。組織はアーカイブス・物質文化・視覚文化の三部門からなり、互いに連携し、既成の学問分野を越えた領域融合型の先端研究を国際的に展開する拠点となるべく活動を開始しております。

たとえば、それは“知の遺産”として“書かれたもの”の記録が蓄えられ、ある秩序のもとに保管され、更に用いられ解釈を喚びおこす「アーカイブス」を尋ねることであり、あるいはそれらは必ず物質性を有し、記念碑的な遺跡から断片と化した碑銘や遺物まで悉く“知のアルケオロジー”によって探査されるモノでもあります。加えて、それらの記憶はみな光に照らされ色と形をそなえたイメージとして表象され、図像となって読み解かれることになるでしょう。これらの全てが、CHTの研究対象となります。

我々は、この三方向からのアプローチにより、文学研究科がこれまで十年間にわたって推進してきたCOE（21世紀・グローバル）のテキスト学拠点構築の成果を元に、更に人文学の全ての領域にわたって、その達成を活かしつつ、これを人類の知の遺産として社会に共有・継承されることを目指します。この人文遺産創成というべき社会実践は、豊かな文化遺産を伝える中部地域の人文学研究拠点である名古屋大学が果たすべき公共的責務でもあるでしょう。

初年度は、設立記念として、ベルリン自由大学からヨヘム・カール博士をお招きし、「前近代社会における知の伝達」をテーマにコロキウムを催したのを皮切りに、国際研究集会、海外研究者招聘講演会、公開セミナー、研究集会を都合十五回開催しました。更に、海外でも米国ハーバード大学でのワークショップを二回、国際学会（EAJS・AAS）ではそれぞれパネルを主催し、若手研究者や大学院生の活躍の場を提供しております。かれらの活躍の詳細は本文を御覧ください。

かくして走りだしたCHTの活動を牽引するのは、アーカイブス部門では私が研究代表者となる科学研究費基盤研究（S）「宗教テキスト遺産の探査と総合的研究」であり、物質文化部門では周藤教授の同基盤研究（A）「古代地中海世界における知の伝達の諸形態」ですが、更なる新学術領域の開拓や国際的な人文学の総合研究拠点の構築を目指しております。これらはいずれも、たとえば前者では真福寺大須文庫の聖教典籍の悉皆調査による目録データ化や、民俗祭儀である花祭の総合的アーカイブス化など、フィールドワークによる基盤的なアーカイブス構築とその社会共有化に支えられるところです。その過程では、文化遺産を伝承する社会や地域との連携を深め、フォーラムや展覧会を企画し実践することも大切な使命と考えています。

CHTをあらたな人文学の拠りどころとすることを理想として、その実現のため着実な成果を積み上げていくつもりです。人文学の未来へ、志を等しくする皆様と諸機関との学術活動を通じた連携を創りあげる一助となれば幸いです。

## アーカイブス部門

基幹教員

阿部 泰郎 Abe Yasurō

● 文学研究科 教授

日本を中心に、古代から近世まで各時代にわたって形成された〈宗教テキスト〉を研究対象とする。図像や儀礼の次元も含めたテキストの悉皆調査と、目録等の各種データ化を通して、その“知の体系”を解明する。そのために、人文学諸分野の研究者・諸機関と連携しつつ、総合的な領域融合型研究を遂行する。

主なフィールドは、真福寺大須文庫（名古屋市）、猿投神社（豊田市）、勸修寺・仁和寺（京都市）および奥三河の花祭（東栄町ほか）などである。また、聖徳太子絵伝や、絵巻・絵本を対象とする宗教／文学／美術の連携研究、儀礼テキストを中心とする大型共同研究・展覧会プロジェクトも推進している。

## 物質文化部門

基幹教員

周藤 芳幸 Sutō Yoshiyuki

● 文学研究科 教授

地中海世界を主な研究対象として、古代ギリシア文明や古代エジプト文明のような人類史を彩る高文明の創造と継承が、いかなるテキストを介した複合的な知の伝達によって実現されたのかを解明する。とりわけ、口承、文字、図像（広義のモノ）に代表される知の伝達手段の相互関係とダイナミズムに焦点をしばり、哲学、歴史学、考古学、美術史学の諸分野において国内外で活躍する研究者のネットワークを構築し、伝統的な専門分野の垣を超えた議論の場を創出することで、人文学に新たな展望を拓く。



Research Center for Cultural Heritage and Texts

名古屋大学文学研究科附属

# 人類文化遺産テキスト学研究センター

## 視覚文化部門

基幹教員

木俣 元一 Kimata Motokazu ● 文学研究科 教授

ヨーロッパを中心に、古代末期から近世に至るまで機能した、宗教的文化と知的システムを以下のような方法により解明する。

キリスト教の聖堂、修道院などの宗教的領域、これを包み込む周囲の領域、さらには私的な領域において、そこに設置されたり、領域内や領域間を移動したり、一時的に提示されたりする絵画、彫刻、ステンドグラスといった各種の視覚的要素が、他の多様な物質的要素（建築、天蓋、聖遺物、聖体、祭壇、櫃、カーテン）、あるいは音声や文字によって提供される言葉とともに、相互関係のもとに置かれることによって成り立つ展示／演出／受容プログラムを、人文学諸分野の研究者と連携し、日本をはじめとする他地域との比較を交えつつ考察する。

## 研究協力部局

協力教員

戸田山和久 Todayama Kazuhisa

● 情報科学研究科 教授

大平英樹 Ōhira Hideki

● 環境学研究科 教授

新美倫子 Niimi Tomoko

● 博物館 准教授

伊藤信博 Itō Nobuhiro

● 国際言語文化研究科 助教

文学研究科や学内外の多様な  
研究組織及び研究者との連携

人類文化遺産テキスト学研究センター開設記念研究集会

## 前近代社会における知の伝達方法

Way of Transfer of Knowledge in the Pre-modern Times

2014年4月19日(土) 13:00-17:00 名古屋大学文系総合館7階 カンファレンスホール

人類文化遺産テキスト学研究センターのオープニング・コロシアム「前近代社会における知の伝達方法」が、著名なエジプト学者であるベルリン自由大学のヨヘム・カール教授を迎えて、2014年4月19日に開催された。このコロシアムでは、木俣元一文学研究科長による開会の辞に続いて、まず同教授による招聘講演「古代エジプトにおける知識の伝達」が行われた。カール教授は、エジプト学者として長年にわたり中エジプトのアシュートで調査を行っているばかりでなく、ベルリン大学において特別研究プロジェクト「流動する学知 (Episteme in Bewegung)」を推進しており、本センターの活動趣旨を十分に理解された上で、古代エジプトにおける知の対象やその伝達のメカニズムについて幅広く論じられた。これに続いて、本研究科からは、和田壽弘教授による「古典インドにおける知識の伝達」と、センター長の阿部泰郎教授による「日本仏教における知識の伝達」と題する二つの講演が行われ、ラウンドテーブル

では、木俣教授も加わって、時空を異にする前近代の三つの文明社会における知の伝達のあり方をめぐって、英語と日本語で活発な議論が展開された。なお、今回のカール教授の名古屋大学への招聘は、日本学術振興会の外国人研究者招聘事業（招聘短期、受け入れ研究者、周藤芳幸）の一環として実現したものであり、これを契機としてベルリン自由大学との研究交流が今後ますます盛んになることが期待される。

(コーディネータ：周藤芳幸)



## 国際研究集会

## 東アジアの宗教儀礼——信仰と宗教の往還

2014年12月13日(土) 13:00-17:30・14日(日) 9:30-17:40

名古屋大学文系総合館7階 カンファレンスホール

2014年12月13日～14日に、人類文化遺産テキスト学研究センター主催（共催：国立歴史民俗博物館共同研究「東アジアの宗教をめぐる交流と変容」・広島大学敦煌学プロジェクト研究センター）の国際研究集会「東アジアの宗教儀礼—信仰と宗教の往還」が、名古屋大学文系総合館カンファレンスホールで開催された。

本研究集会は、東アジアの宗教や信仰について、「宗教儀礼におけるジェンダー」と「民俗」という観点から総合的に捉え直すものであり、人文学の多様な分野の研究者によって基調講演や報告がなされた。

第Ⅰ部「東アジアの宗教と信仰—ジェンダーの視点から」では、阿部泰郎氏（人類文化遺産テキスト学研究センター長）による趣意説明を基に、荒見泰史氏（広島大学）の基調講演「敦煌文献より見た唐五代の女性を取り巻く社会環境」、小林奈央子氏（愛知学院大学）「霊山と女性—ジェンダー—宗教学からの再検討」、澤井真代氏（法政大学沖縄文化研究所）「琉球列島の女性祭司における神と人」の報告が行われ、コメントーターの兵藤裕己氏（学習院大学）やフロアを交えて、東アジアの宗教や民俗の中における性（ジェンダー）の在り方について議論がなされた。二日目は、阿部泰郎教授の司会によって、江口啓子氏（名古屋大学大学院）「『新蔵人』絵巻に見る女性と信仰—善妙寺と光明真言について」、恋田知子氏（国文学研究資料館）「尼と物語草子」の報告がなされ、中世日本において成立した物語文芸の領域に見出される性の越境や交流、物語と尼の問題が取り上げられた。



楯鬼（写真提供：名古屋市博物館）

第Ⅱ部「場と身体の再生と循環する時間—“民俗の力”を問い直す」では、松尾恒一氏（国立歴史民俗博物館）の趣意説明を基に、ハルオ・シラネ氏（コロンビア大学）の基調講演「二次的自然と護符的な力—都と里山」をはじめ、松山由布子氏（名古屋大学大学院）「奥三河花太夫所蔵文献に見る牛頭天王信仰と儀礼」、黄潔（広西師範大学大学院）「記憶された伝統—桂北侗寨の送火儀礼と災難をめぐる語り」、小池淳一氏（国立歴史民俗博物館）「日本民俗の時間観—陰陽道の民俗的展開を中心として」の報告が行われた。その後はフロアを交えて、それぞれの共同体や文化圏の中で共有される信仰や民俗知、宗教儀礼や民俗社会における時間や空間の認識の在り方などについて議論がなされ、東アジアの信仰や宗教について、研究分野を越えた国際的な共通課題の認識と意見交換の場となった。

なお、本シンポジウムのうち、第Ⅱ部を中心とした基調講演と報告はセンター紀要『HERITEX』創刊号に掲載される。



調査報告

ハーバード大学美術館・仏教美術ワークショップ

## 聖徳太子二歳像胎内納入宗教テキスト調査速報

2015年3月20日、新たに開館したばかりのハーバード大学美術館において、所蔵する聖徳太子二歳像の胎内納入品を中心とする仏教テキスト類をワークショップ形式で調査しつつレクチャーする機会を得た。同大学のメリッサ・マコーミック教授（日本美術史）と阿部龍一教授（宗教学）の格別なご配慮により実現したところである。

この、正応五年（1292）紀年を含む納入品の一覧は同大学のローゼンフィールド教授により詳細な報告がなされている（1969）が、今回、その中に含まれる聖教類について精査し、それらの本文に接することが可能となった。既に弘安五年（1282）写「真如観」異本については道元氏により紹介される（2009）が、関心の焦点となったのは、これまで全くその内容が知られなかった三冊の仮綴本である。奥書識語なく、同筆一具の鎌倉後期写本で、内容から判断するに、おそらく道宣『四分律行事鈔』の一部を講説談義した、その聞書筆録とみてよい。このうち「二衣篇」には、「西大寺古（故）長老」すなわち叡尊（1290入滅）への言及が再三見え、それが叡尊没後の律衆たちの間で（おそらく尼に対して）なされた講説であったと推察される。その内容や考証に渉る報告は他日を期すが、これが中世西大寺流律衆の活動を知る上できわめて貴重な文献であることは確かである。またこれが、いわゆる天台本覚論の代表的文献とされる『真如観』の異本と共に納められていたことは、中世仏教の実態について再考をうながす格好の事例といえよう。23日にイエンチン研究所で催されたセミナーにおいて、これらの知見について院生を含む同大学研究者に報告を行ったが、その意義について活発な意見が交わされた。



（ハーバード大学美術館 HPより引用 <http://www.harvardartmuseums.org>）

本像は、その納入品によって造立年代を知りうる最古の南無仏太子像として名高く、しかも優れた彫像である。南無仏太子像の成立には、大和橘寺の律僧敬願房の関与が伝えられている（『太子伝玉林抄』）が、その伝承に照応するような遺品といえよう。何より、本像の納入品は舍利・仏像・経典をはじめ、結縁者僧尼の信仰の形見というべき多様な納物に満ちているが、その複合の中心にこれら宗教テキストを位置付けてみれば、全体は聖徳太子の宗教遺産のアーカイブスそのものということができよう。その解読と解釈によってこそ、造立者がこれらテキストに託したメッセージが喚び起こされ、アーカイブスの価値が復原されることだろう。その努力を持続することを誓って、いまだ春の到来遅いボストンを後にした。

（文学研究科教授・センター長 阿部泰郎）



## 海外出張報告

## 中世絵物語ワークショップ

## 『『ちごいま』の世界』活動報告

2014年10月12日ハーバード大学において、人類文化遺産テキスト学研究センターとハーバード大学の共催により、中世絵物語ワークショップを行った。今回は『『ちごいま』の世界』と題して、室町期に成立したと考えられるお伽草子『ちごいま』を取り上げ、名古屋大学の大学院生4名が報告を行った。

中世には絵物語が多く作成され、絵巻や絵本といった形態をとって人々に親しまれた。本ワークショップで取り上げた『ちごいま』も、彩色絵巻、白描絵巻、奈良絵本というそれぞれ異なる形態の伝本が残されている。彩色絵巻、白描絵巻は絵とそこに書き込まれた画中詞を伴い、詞書とセットで享受される。これら絵巻に対し、奈良絵本は画中詞を持たないものの、本文は引歌や『源氏物語』からの引用をはじめ多くの情報を有している。本ワークショップは、これら三本の比較対照を行い、本文の検討と注釈を行った『ちごいま』研究会の成果を踏まえたものである。

『ちごいま』は、寺院に仕える稚児を主人公とした稚児物語に分類されるが、多くの稚児物語では稚児が僧の性愛の対象となるのに対し、『ちごいま』では主人公の稚児が姫君に恋し、その成就のために女装し、女房となって姫君に仕えるという点におおきな特徴がある。王朝物語や説話、お伽草子など、多くの先行作品や同時代作品と関わり合いながら独自の物語世界を創りあげており、多角的な視点からのアプローチができる作品である。

ワークショップでは、まずメリッサ・マコーミック氏により『ちごいま』の梗概と諸問題が示された。その後、名古屋大学大学院生である鹿谷祐子、服部友香、江口啓子、末松美咲が、各々の観点から『ちごいま』について発表した。発表は、鹿谷、服部、江口、末松の順に、それぞれ20分ずつ行った。



最初に鹿谷祐子は『『源氏物語』を読む女房—『ちごいま』における享受の仕方』という題目で発表し、『ちごいま』における『源氏物語』享受の多様な在り方を検討したうえで、中世の女性教育について論じた。

次に服部友香が『『ちごいま』の文学史的位—「兒と女性の恋物語」という視点から』という題目で発表を行い、『ちごいま』が男色を題材にした一般的な〈兒物語〉とは異なり、「兒と女性の恋」を描く作品の中に位置づけられることを指摘した。

次に江口啓子は「画中詞の中の女房たち—『ちごいま』絵巻を中心に」という題目で、『ちごいま』絵巻の画中に登場する多くの女房たちを取りあげ、彼女たちが現実の女房の序列に合わせて画面配置されており、女房の序列に合わせた人物造形がなされていることを論じた。

最後に末松美咲が『『ちごいま』における天狗の世界』という題目で、物語において重要な役割を果たす天狗について詞書、絵、画中詞の三点から分析し、『ちごいま』における天狗の世界を示したうえで、天狗像の展開のなかに位置づけた。

これらの発表の後、全体での質疑応答が行われた。中世文学における女性と仏教の問題、『ちごいま』にみられる「反転」の構造、『ちごいま』における「家」や「親子」の重要性とその中世的な意義、物語における「異界」の問題など、多様な観点から盛んな議論が交わされた。

(文学研究科博士課程後期課程 末松美咲)



2014年度活動報告

国際研究集会・シンポジウム

センター開設記念国際研究集会

P.4参照

前近代社会における知の伝達方法

国際研究集会

P.5参照

東アジアの宗教儀礼——信仰と宗教の往還(国立歴史民俗博物館、広島大学敦煌学プロジェクト研究センターとの共催)

公開シンポジウム

バルテュスとその境界

木俣元一 [名古屋大学文学研究科] 「バルテュスとキリスト教」 他5名の報告、ディスカッション

2014年6月29日 10:30-17:00 名古屋大学文学研究科 237講義室

公開研究集会

イタリア・ルネサンスの宗教空間と図像プログラムを読み解く

百合草真理子 [名古屋大学非常勤講師]

「コレッジョと天井画

——サン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ聖堂(パルマ、1520-21)を中心に」

須網美由紀 [名古屋大学非常勤講師]

「ジョヴァンニ・ベリーニ作、《ディレッチェ祭壇画》に関する一考察

——トゥッリオ・ロンバルド作、《ベルナボ祭壇彫刻》とのパラゴネの観点から」

2014年9月27日 13:30-16:15 名古屋大学研究科 237講義室

公開シンポジウム

古代エジプトにおける宗教性と物質文化

田澤恵子 [古代オリエント博物館] 「古代エジプトの神と人々」 他3名の報告、全体討議

2015年3月14日 13:00-18:00 名古屋大学文学研究科 127講義室

講演会

公開講演会

大惣本と近世名古屋の読者

ミギー・ディラン [名古屋大学国際言語文化研究科]

2014年6月24日 15:00-17:00 名古屋大学全学教育棟北棟 406号室

公開講演会

韓国・台湾における日本語日本文学の諸問題

梁慶模 [木浦大学] 「日本語教育と国際交流」

曹景恵 [国立台湾大学] 「三聖派遣説からみる無住の思想傾向」

2014年8月8日 15:00-17:00 名古屋大学全学教育棟北棟 406号室

第31回渋沢・クローデル賞本賞(2014年度)受賞記念公開講演

文化遺産の表象、19世紀における生成と変容

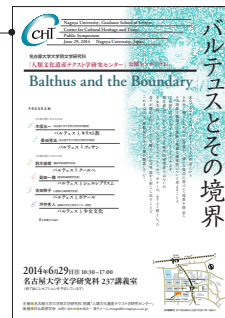
——パリ、ノートル=ダム大聖堂の保存・修復を中心に

泉美知子

2014年10月25日 13:30-15:30 名古屋大学文学研究科 237講義室



センター紀要『HERITEX』掲載



センター紀要『HERITEX』掲載



センター紀要『HERITEX』掲載



センター紀要『HERITEX』掲載



公開講演会

王権と霊場——秩序の同心円構造の再考

アルノー・ブトンス [エクス・プロバンス大学]

2014年11月8日(土)10:30-12:00 名古屋大学全学教育棟北棟 406号室

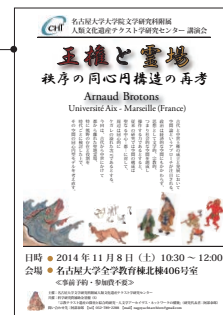
公開講演会

可変性をそなえた「フレーム」概念

——「菅田宗廟縁起絵巻」、「八幡縁起絵巻」と「万国人物図」を例に

メラニー・トレーデ [ハイデルベルク大学]

2015年3月10日(火)15:00-17:00 名古屋大学文学研究科 131講義室



公開セミナー

畝部俊也 [名古屋大学文学研究科]

『仏頂尊勝陀羅尼』関連の新資料について

佐々木大樹 [大正大学非常勤講師・智山伝法院常勤講師]

「法隆寺貝葉「仏頂尊勝陀羅尼」をめぐる

——特に松浦史料博物館所蔵「大倭國法隆寺所蔵貝多羅梵経」に注目して

2014年7月17日(日) 17:00-19:00 名古屋大学文学研究科 大会議室

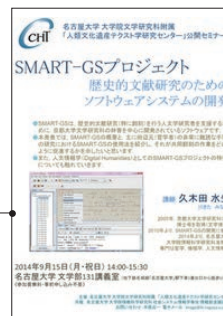


久木田水生 [名古屋大学情報科学研究科]

「SMART-GS プロジェクト

——歴史的文献研究のためのソフトウェアシステムの開発」

2014年9月15日(月)祝 14:00-15:30 名古屋大学文学研究科 131講義室

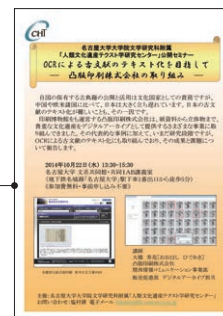


大橋秀亮 [凸版印刷株式会社]

「OCRによる古文書のテキスト化を目指して

——凸版印刷株式会社の取り組み」

2014年10月22日(火)13:30-15:30 名古屋大学文系共同館 共同1AB講義室



上川通夫 [愛知県立大学教授]

「普門寺史料の出現と愛知文化遺産」

2015年2月17日(火) 14:00-15:30 名古屋大学文学研究科 大会議室



研究活動 (基盤研究(S))「宗教テキスト遺産の探査と総合的研究——人文学アーカイブス・ネットワークの構築」による

ヨーロッパ日本学協会リュブリャナ大会 (EAJS)

宗教部門パネル主催「宗教的身体と儀礼芸能」(ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS) ルチア・ドルチェ教授と共催)

2014年8月27日(火)~30日(金) リュブリャナ大学 (スロベニア)

リュブリャナ大学・筑波大学主催国際フォーラム

書物とことばの仏教文化史——唱導・説教の地平から

招待講演 阿部泰郎「中世日本の唱導における書物とことば」

(基盤研究 (B))「唱導文献に基づく法会の総合的研究」代表：筑波大学近本謙介准教授と共催)

2014年8月31日(日) リュブリャナ大学 (スロベニア)

ハーバード大学・京都大学主催国際研究集会

宗教遺産学の構築

招待発表 阿部泰郎「宗教遺産としての聖徳太子」

(基盤研究 (A)「人類の思想的営みとしての宗教遺産の形成に関する総合的研究——宗教遺産学の構築へ」

代表：京都大学上島亨准教授と共催)

2014年10月10日(金)・11日(土) ハーバード大学ライシャワーセンター (アメリカ)

ハーバード大学・名古屋大学共催ワークショップ

P.6・7参照

日本中世絵物語の展開 2014年10月12日(日) ハーバード大学 (アメリカ)

中世仏教美術の展開 2015年3月20日(金)・23日(日) ハーバード大学 (共にハーバード大学メリッサ・マコーミック教授と共催)

東京国立博物館講演会

法隆寺と聖徳太子をめぐる空間と美術 (東京国立博物館土屋貴裕研究員と共催) 講演講師 阿部泰郎

2014年12月6日(日) 東京国立博物館 平成館大講堂

アメリカ・アジア学会 (AAS) シカゴ大会

パネル主催「Transgressive Tales in Premodern Japan :

Gender, Sexuality, and Women's History through The New Chamberlain」

(ハーバード大学メリッサ・マコーミック教授と共催)

2015年3月27日(金) シカゴ・シェラトンホテル (アメリカ)

※鹿谷祐子「『新蔵人』絵巻の『越境』性—AAS (アジア学会) での発表報告」(『レポート空間』No.58掲載)

2015年度の研究活動

公開講演会

メキシコの世界遺産 ロベルト・ルナゴメス [ベラクルス大学]

2015年4月28日(火) 14:45-16:15 名古屋大学文系総合館 カンファレンスホール

公開セミナー

21世紀の〈村落共和国〉をめざして

——バリ島先住民村落と聖なる鉄琴スロンディンをめぐる

〈文化の内と外〉との新たな関係構築

野澤暁子 [名古屋大学文学研究科]

2015年5月27日(日) 15:00-17:30 名古屋大学文学研究科 大会議室

日本西アジア考古学会第20回大会 (後援：人類文化遺産テキスト学研究センター)

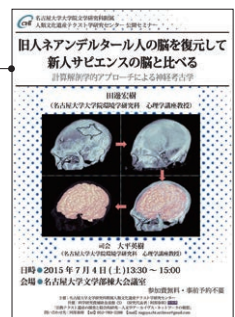
2015年6月13日(日)・14日(月) 名古屋大学野依記念学術交流館

公開セミナー

旧人ネアンデルタール人の脳を復元して新人サピエンスの脳と比べる

田邊宏樹 [名古屋大学環境学研究科]

2015年7月4日(日) 13:30-15:00 名古屋大学文学研究科 大会議室



## 公開セミナー

## 聖なる場におけるイメージと「もの」

水野千依 [青山学院大学] 「「神聖空間」と「場の模倣」——トスカーナの聖母像崇敬を例に」

木俣元一 [名古屋大学] 「「展示プログラム」としてのゴシック聖堂」

秋山 聡 [東京大学] 「儀礼における聖遺物、聖体および聖像」

2015年7月11日 田 13:00-17:30 名古屋大学文学研究科 131講義室

## 公開フォーラム

## 井波絵解きフォーラム 南砺の聖徳太子信仰と絵解き文化を探る

沖松健次郎 [東京国立博物館] 「聖徳太子絵伝入門」

名古屋大学大学院生による聖徳太子絵伝絵解き

2015年6月6日 田 13:30-16:30 南砺市井波総合文化センター メモリアルホール

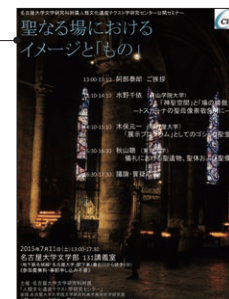
阿部泰郎 [名古屋大学文学研究科] 「法隆寺と井波を結ぶ信仰の道——南無仏太子と絵伝の世界」

土屋貴裕 [東京国立博物館] 「聖徳太子絵伝鑑賞の場」

太子伝絵解き説法 竹部俊恵 [妙蓮寺住職・横浜別院 輪番] / 吉澤孝昭 [井波別院瑞泉寺 列座]

座談会「太子伝会フォーラム」ゲストスピーカー 原口志津子 [富山県立大学] ほか

2015年6月7日 田 13:30-16:30 井波別院瑞泉寺 太子堂



## 講演会

## 書物の王国 愛知の文庫と典籍——『愛知県史 別編 文化財4 典籍』の編さんを通して

岡田 荘司 [國學院大学] 「真福寺本古事記と熱田本日本書紀」

四辻秀紀 [徳川美術館] 「徳川美術館に伝えられた典籍」

桐原千文 [名古屋市蓬左文庫] 「蓬左文庫の成立と発展」

2015年9月12日 田 名古屋大学野依記念学術交流館2階ホール



## シンポジウム

## 朝鮮と日本・交流の諸相——通信使の生みだした文化 2015年10月31日 田 名古屋大学

※関係企画：展覧会「豊かな朝鮮王朝の文化—交流の遺産」 2015年9月19日 田—11月8日 田 徳川美術館・名古屋市蓬左文庫

## シンポジウム

## 日本の文化遺産としての絵物語 (仮題) 2015年10月2日 田・3日 田 ストラスブール大学 (フランス)

## ワークショップ

## 絵解き文化への招待 (仮題) 2015年10月9日 田 フランス国立東洋言語文化大学 (フランス)

## 公開フォーラム

## 城端絵解きフォーラム 城端別院と南砺の絵解き文化 2015年10月17日 田 じょうはな座 (富山県南砺市)

## シンポジウム

## Scholarship between Clay and Light—Libraries, Archives and Documents in the Eastern World

阿部泰郎 [名古屋大学文学研究科] 「知のトポスもしくはアーカイヴズとしての「宝蔵」——日本における〈知の遺産〉の形成と展開」(仮題)

2015年11月7日 田 ベルリン自由大学 (ドイツ)

## 講演会

## Akoris: Quarry and Local Society in Ptolemaic Middle Egypt

周藤芳幸 [名古屋大学文学研究科] 2015年11月9日 田 ベルリン自由大学 (ドイツ)

## 国際シンポジウム

## 〈聖なるもの〉のマテリアリティ (仮題) 2016年3月 ハイデルベルク大学 (ドイツ)

通年の基盤的調査と研究連携

「真福寺大須文庫調査研究会」の活動支援

重要文化財一括指定のための悉皆調査・データ入力・デジタル画像化の実施

『中世禅籍叢刊』編集・公刊のための調査・研究

「勸修寺聖教文書調査団」の活動支援

重要文化財一括指定のための聖教目録作成

人間文化研究機構連携展示

「日本儀礼テキストの世界（仮題）」企画立案と共同研究（2015～18）

「花祭アーカイヴス」構築の活動支援

奥三河花祭資料伝承者・所蔵機関への現地調査・デジタル画像化

刊行本の紹介

ナイル世界のヘレニズム エジプトとギリシアの遭遇

周藤芳幸著

名古屋大学出版会 2014年11月 438ページ

西洋最古のグローバル化の時代であったヘレニズム時代に、エジプト文化とギリシア文化が交錯したナイル世界では、どのような文化変容が生じていたのか。本書では、長年にわたる考古学的調査の成果を踏まえて、この時代のエジプト在地社会を地中海世界の動向の中に再定位することにより、新たなプロトレマイオス朝エジプト王国像を提示する。



室町時代の少女革命『新蔵人』絵巻の世界

阿部泰郎監修 江口啓子・鹿谷祐子・玉田沙織編

笠間書院 2014年10月 182ページ

室町時代に成立した小型の白描絵巻である『新蔵人』絵巻について、詞書や画中詞の現代語訳・注釈・解説を加える。少女が男装して宮中に出仕する絵物語の“読み方”を、初学者にも分かりやすく提示する。また、ハーバード大学の日本美術史研究者、メリッサ・マコーミック氏のこの絵巻についてのインタビューも収録する。



愛知県史 別編 文化財4 典籍

愛知県史編さん委員会編／阿部泰郎監修

愛知県 2015年3月 790ページ

愛知県内には、古代中世に創建された七寺、大須観音、熱田神宮、猿投神社などの寺社や近世以降に成立した河村文庫や岩瀬文庫など個人の文庫に豊富な古典籍・聖教が遺されている。本書では、各寺社文庫の蔵書形成の歴史とともに、代表的な典籍写真を交えて詳細に解説し、多数の図版によって愛知の古典籍の世界を示している。



六所家総合調査報告書 聖教

阿部泰郎監修

富士市教育委員会 2015年3月 461ページ

静岡県富士市の六所家が所有していた文化財について富士市教育委員会による調査成果が継続的に刊行されているが、本書は六所家の前身である真言宗寺院東泉院が所蔵した聖教についての調査研究の報告書である。東泉院歴代の事蹟や復元による総目録に加え、重要書目の紹介がなされており、東泉院の宗教的位置付けとともに富士山麓の宗教文化の豊饒さを示す。



中世禅籍叢刊第5巻 無住集

臨川書店 2014年11月 544ページ

真福寺大須文庫と金沢文庫称名寺に所蔵される聖教の中から、禅に関する貴重文献を抜粋した叢書の一巻として、鎌倉時代に尾張で活躍した無住一円の著作を編んだ。収録したのは、無住の仏教思想の全体を示した『聖財集』天理図書館本（初紹介）と、新発見の聖一國師円爾弁円の許で学んだ際の聞書（大須文庫本・断簡復元）で、後世の禅僧としての無住像とは異なる、諸宗兼学の密教僧としての無住の実像がうかがいあがる。

